

語り合う文学教育の会

2012年度 No.1

2012年3月15日・文責 橋本博孝

第10回大会 66名参加！

3月3日に三重大学で第10回会員総会と大会を開きました。

総会では、会務・会計・次期役員が提案され、いずれも承認されました。

また、大会には、三重県だけでなく全国的に活躍されている石井順治先生にご講演をお願いしました。内容はあらためて紹介します。

参加者は66名でした。昨年度の大会は50名だったので、今回はずいぶんたくさんの方に来ていただきました。遠くは仙台や千葉から、また県外では、愛知、名古屋、多治見、京都、枚方、奈良、和歌山からの参加者がありました。遠い所、ありがとうございます。

こんなことを書くと三重県内だって遠い所はあるんだと言われそうだし、近くの方もいろいろな困難さの中で来てくださっています。みなさん、ご苦労さまでした。ありがとうございます。たくさんの方の参加でいろんなことを学び合うことができました。

当日新たに会員になってくださった方も含め、今年度の会費納入者は47名です。

☆ 次期役員（2012年4月～2014年3月）のみなさんです ☆

会長・藤原和好さん（三重）

副会長・伊藤隆司さん（京都）・近藤恵子さん（枚方）・横山信幸さん（愛知・新）

横山信幸さんが新たに副会長になってくださいました。

機関誌編集長・松本吉弘さん（三重）

事務局・橋本博孝（三重・奈良）・守田庸一さん（三重）・若山博史さん（三重）

・入澤佳菜さん（奈良）・中垣清人さん（名古屋）・鈴木啓史さん（奈良）

2年間よろしくお願ひします。

承認された会務と会計の内容です

I. 会員（会費納入者）

今年度は初めて100名をこえました。みんなで108名です。昨年度は90名でしたから、18名増えました。

100名というのは、会を安定的に運営していく最低線です。財政的にもそうですが、なにより実践の交流と検討には、いろんな地域の様ざまなとりくみに学び合うことが不可欠だからです。ひきつづき会員を拡げていきましょう。

II. とりくみ

次のページに掲げましたが、語り合う会単独の集会（☆印）ののべ参加者は、307名にのぼりました。この数を増やすことが、何度も言いますが、会の実践の深まりになります。

これまで、日本文学協会国語教育部会・三重小国研・奈良サ連協などと共同のとりくみを行ってきました。今年度は、三重民教連でのとりくみもすすめました。来年度11月には近畿東海地区の民教連大会が三重で開催されます。他府県の実践に学ぶ、また会の実践をさらに拡げるチャンスです。

またいろんな学校の校内研修会などでも、会を紹介してきました。校内研修に採り入れてくださる学校が増えました。国語教育（文学作品・説明文）の実践の場での影響力は年々しみわたっていると確信できます。

教材の観方や授業づくりの理論的側面では新しい局面が拓かれつつあります。

昨年度、藤原和好会長が「教室で文学を生みだすための5つの原則と7つの手だて」を機関誌9号に発表されました。これは数年前から提案されているものですが、それ以後、授業の具体的なすがたについての論議が深まっています。10号でも多く言及されています。

わたし（橋本）は、発問や板書などの具体的方法は、一人ひとりの教員の授業権に属すると考えています。そういう意味で、手引となるような制度化された授業過程を会としては考えてきませんでした。その立場は変わりませんが、読みとは何か、授業とはどういうものかを大きく提示し、さらに論議することは必要だと思います。今、文学作品の語りも説明文のレトリックも、単なる情報として処理されてしまう読み、「どこに書いてあるか」を探すだけの授業、音読一辺倒の国語科などに疑問を感じている教員は数多くいます。この現場の実践的な課題にこたえることにもなります。

Ⅲ. 2011年度活動記録

- ☆第9回大会（3月5日・三重大学）＝50名
- ☆4月例会・三重（9日）実践報告「大造じいさんとガン」・草分京子さん＝25名
 - ・奈良（23日）機関誌9号学習会＝15名
- ☆5月例会・三重（14日）実践報告「ふきのとう」島影千琴さん＝14名
 - ・奈良（28日）実践報告「モチモチの木」菱井一宏さん＝13名
- ★6月23日・「つり橋わたれ」菱井一宏さんの校内研究授業
- ☆6月例会・三重（25日）実践報告「生き物は円柱形」若山博史さん＝16名
- ☆7月例会・奈良（2日）実践報告「いじめっ子が二人」鈴木啓史さん＝7名
- ★7月3日・日本文学協会研究発表大会（名古屋）
- ☆7月例会・三重（23日）実践報告「ごんぎつね」中西祐司さん＝16名
- ★8月6～7日・日本文学協会国語教育部会夏期研究集会（東京）
- ☆8月合宿研（松阪・20日）実践報告「緑の馬」入澤佳菜さん＝19名
 - （松阪・21日）実践報告「白いぼうし」庄司たづ子さん＝19名
- ★8月27～28日・近畿東海サ連協合同集会
- ☆9月例会・奈良（17日）物語の授業を考える・橋本博孝＝9名
- ☆10月例会・三重（8日）「かさこじぞう」の教材研究＝14名
 - ・奈良（15日）実践報告「海の命」福村もえこさん＝8名
- ★11月3日・三重民教連教育集会
 - ☆「物語の授業のすすめ方」橋本博孝＝27名
 - ☆「説明文の授業 教材研究の進め方と授業づくり」守田庸一さん＝17名
- ☆11月例会・三重（12日）「いちねんせいのうた」原田聡子さん＝7名
- ★11月19日・奈良教育大学附属小学校公開研究会
- ☆12月例会・奈良（10日）実践報告「注文の多い料理店」入澤佳菜さん＝6名
 - ・三重（17日）実践報告「モチモチの木」福井麻子さん＝12名
- ★日本文学協会国語教育部会冬期合宿研（甲府）
- ☆1月例会・三重（28日）実践報告「かさこじぞう」望月靖子さん＝8名
- ☆2月例会・奈良（11日）実践報告「くじらぐも」辰野祥子さん＝5名
- ★2月14日・三重小学校国語教育研究会

Ⅳ. 2012年度計画

まず、機関誌を拡げましょう。

機関誌第10号は、これまでの実践と理論の到達点を示す内容になりました。実践報

告も論考も自信を持って宣伝できます。1冊1000円（学生授業用500円）で1000部普及します。これまでの機関誌とあわせて、特に若い世代にも読んでもらい、新たな実践を生みだしていきましょう。

これまでの機関誌の残部は次のとおりです。

創刊号＝残部なし。

○1冊200円で普及

2号＝45部・3号＝30部・4号＝25部

○1冊500円で普及

5号＝60部・6号＝20部・7号＝50部・8号＝55部・9号＝70部

各号の内容はホームページに目次を載せています、ご覧ください。

わたしたちの原点は、例会での実践交流と検討です。三重と奈良では、毎月開催できるようにします。

例会では、次のことを大切にしたいと思います。

①教材研究の到達点をふまえた実践を構想しよう

教科書教材を中心に、たくさんの実践を検討してきました。授業は、地域も子どももねらいも違いますから、単純に比較はできません。が、教材をどう見るかについては、到達点をふまえて一步を進める検討をしたいと思います。これまでの実践で何が明らかになり、何が課題なのか、機関誌などで確かめましょう。当然、これまでの達成を批判的に見る立場もあります。

いずれにしても、積み重ねが大切だと思います。毎回毎回0から出発するのではないということです。

これは授業者・実践報告者ではなく、例会の運営上の課題です。

授業者は、子どもたちから出発しますから、はじめから枠づけを固定化して教材に対するものではありません。教材の観方が子どもたちとの授業の中でどう変わっていったのかが問われます。

その実践報告をうけて、わたしたちはこれまでの到達点をふまえた論議を組み立てましょう。教材解釈でも授業次元でも、何が確かめられたのか、何が新たに提起されているのかを、話し合いの中で見つけ出しましょう。

例会の進行をしてくださる事務局員のみなさん、がんばりましょう。

もちろん、新しく来られた先生たちの疑問や意見は、どんなことでもどんどん出していただきます。

②三重の会員がとりくんでいる授業記録づくりに学ぼう

三重では、多くの会員が自分の授業を録音し、文字起こししています。これは時間のかかるとりくみです。でも、この努力が授業力を育てる土壌になっています。毎回するわけにはいかないでしょうから、年に何回か、じっくり取り組む教材でぜひやりましょう。

わたし（橋本）の経験ですが、授業の後すぐにやったほうが、覚えている部分が多いから簡単にできます。速記録ではないので一字一句再現しなくても、授業の流れ、山場のやり取りなどを記録していきましょう。

このことについては、**第 10 号で伊藤隆司副会長**が論じておられます。ぜひ読んでください。

③会員のあすの力になる例会にしよう

授業実践の語り合いだけでなく、学校や子どもたちのすがたを出しあい、課題や疑問をみんなのものにし、新しい人も常連も対等に語り合うことをめざしましょう。今、どこの教室にもさまざまな困難さがあります。子どものことや保護者のことなどで、とても授業どころではないという話も聞きます。職場の同僚性も薄れてきたと指摘されることもあります。背景には教員に対する管理の強まりがあります。

そもそもわたしたちは、なぜ、休日に出かけ、自分でお金を出して、サークルで学び合っているのでしょうか。

何よりも目の前の子どもたちともっと生きいきと読みを語りあいたいからです。さまざまなとらわれから、子どもたちもわたしたちも解き放たれて、それぞれの人間的な自立に向かって歩み出す方向に喜びを見いだしたからです。

わたしたちの目指している方向は、たとえ今は職場で少数派に見えようとも、実践の次元から教育を変えていく力になると信じます。橋下大阪市政に典型的な、教員を縛り、子どもを縛ろうとする動きに、わたしたちは実践の場で対峙していきましょう。そのことが、展望を見いだせず悩んでいる仲間たちをはげますことになります。

わたし（橋本）は、確とした展望をいつも持っているわけではありません。迷ったり、先が見えなくなったりするばかりです。それでも、橋下教育条例の方向に、子どもたちの未来はないことだけはわかります。

例会に来る人たち、例会には来られないけれど、会報やホームページでつながっている仲間たち、一人ひとりが、明日の教室に向かう力が湧いてくるような会にしていきたいと思います。

V. 語り合う文学教育の会 第10回総会決算報告

2012年3月3日 承認

収入	収入内訳	金額
	前年度引き継ぎ（現金貯金合計）	17万3875円
	会費（2000円×108名）	21万6000円
	機関誌売り上げ（2~4号200円・5~9号500円）	10万2500円
	寄付（藤原先生）	1万2000円
小計		50万4375円
支出	支出内訳	金額
	機関誌9号印刷代（振込手数料含む）	11万6025円
	郵送費（切手・葉書含む）	12万6550円
	事務費（封筒・セロテープ・のりなど）	1万1551円
	会合費（コーヒー粉・お茶・紙コップ）	2701円
	夏合宿懇親会補助	5000円
	機関誌10号表紙写真代	1万4595円
	機関誌10号表紙絵・編集謝礼	2万0000円
	還元金 三重（500円×44名）	2万2000円
	還元金 奈良（500円×25名）	1万2500円
	講師謝礼・交通費	3万0000円
	大会要員昼食費	1万0000円
小計		37万0922円
差引	貯金・現金合計・10号印刷代未払い	13万3453円

大会参加者の感想

☆中村龍一さん（千葉）☆

第10回大会に思い切って参加してよかったと心から思っております。会員の末席に名を連ねさせていただきながら、1度も研究会に参加していないことを心苦しく思っております。研究会、懇親会でみなさんの顔を拝見してやっと会員の自覚が芽生えて参りました。

講演された石井順治先生は、私が尊敬している「幼児教室」（習志野市）の園長、岡野南子先生が大ファンなのです。岡野園長から石井先生の御本は戴いたり買わされたりで、お考えはよく知っております。「聴き合い、学び合い」の実際をビデオでお話しいただいたこと参考になりました。『忘れられないおくりもの』が面白かったのですが、質問したいこともありました。

分科会は、庄司たづ子先生の「茂吉のねこ」の分科会に参加させていただきましたが、庄司先生の飾らない話し方、子どもの読みを大切にされたご報告にまず好感が持てました。分科会では、みなさんがその方らしい言葉でお考えを語っていました。時には脱線があっても、それを許す和やかな雰囲気素晴らしかった。これが「語り合う文学教育の会」だと実感しました。ですから、庄司先生のクラスの語り合いも見事でした。おかげで私も、「茂吉のねこ」に数々の発見をいただきました。

また、懇親会のことも忘れられない思い出となりました。私が主に活動している日文協、ことばと教育の会とこれからもますます交流を深め、「語り合う文学教育の会」の実践で、現場の文学教育に春風を吹かせようではありませんか。

☆木下ひさしさん（宮城）☆

雪の仙台から飛行機と船を乗り継いで津に上陸しました。講演、分科会、そして懇親会。はるばるやってきた成果は十分です。あらためてことばの教育について、自分がこれまでやってきたこと、これからやっというとしていくことへの確信を持つことができました。現状に甘んずることなく、学び合う会、高め合う会、変わり合う？会になっていくことを願います。状況はしんどい部分もありますが、まあ明るくぼちぼちとやっていきたいものです。運営、発表のみなさんご苦労さまでした。

☆福村もえこさん（奈良）☆

今まで参加した中で一番楽しい大会で、元気の出る大会でした。

☆横山信幸さん（愛知）☆

それぞれが自分の考えを持ち、これを主張しながらもお互いにこれを受けとめていく。この会の人を包み込むような暖かな感じは、懇親会にも、さらに帰りの名古屋行きの電車の中でも持続していた。それは、おそらく、この会の先生方の子どもへの接し方からくるのではないかと考えていた。

創刊十周年記念号に載せられたいずれの論考も、鋭い問いで満ちている。実践記録を読むと、教師と子どもたちとで作り出していく世界が、まるで、いま、物語創成の現場に立ち会っているかのようなみずみずしさと緊迫感をもって立ち上がってくる。貴重な機関誌である。

大会に参加されたみなさん、感想やご意見をお寄せください。機関誌10号についてのご意見をお待ちしています。

これからのとりくみ

★3月31日（土）三重民教連・春の教育集会

案内を同封しました。近藤さんのお話が聞けます。若い先生を誘ってください。

☆4月7日（土）三重例会 午後2時半～ 三重大学教育学部国語科ゼミ室

「文学のことば—描写の読み方—」 藤原和好会長がたっぷり語ります。

あわせて、三重の年間計画を決めます。

☆4月28日（土）奈良例会・奈良教育大学附属小学校

奈良サ連協集会の分科会として開催します。午後1時半～3時・全体の集会

3時～5時・語り合う会4月例会 物語の授業を考える（機関誌10号をもとに）

奈良の年間計画を決めます。

※会員の皆さん、まだ会員ではない方も、同封の払込用紙で会費2000円をお願いします。大会などで納めてくださった方には入れていません。折り返し機関誌10号をお送りします。

※執筆してくださった方には機関誌10号を3部お送りします。別便です。ちょっとお待ちください。